

JAPANESE ART TODAY: “構え” 展

1987 年 10 月 16 日-11 月 12 日

South London Art Gallery, London, UK

M. Yamada Flannery

編集、アートライター

Overseas Courier Service (London)

日本独自の心象を

ロンドンの南東に位置するキャンバーウエルに、サウスアートギャラリーがある。近くに住んでいた夏目漱石が、このギャラリーを度々訪れたと、日記の中に書いている。

ここで日本人 8 人のアーティストたちが “構え” と名つけた展覧会を開いた。”構え“とは組み立て、構造すると言う解釈以外に、何かに対する姿勢、身構えと言う意味も含まれる。日本人アーティストが意識的に、または無意識に持つ日本人の精神と芸術への行為性を、西洋社会に作品として評して発表していく上での、彼らの姿勢、および身構え方という意味で、このタイトルが付けられた。会場は比較的、天井が高く参加者の一人である由実子イレーギョクチェの版画の大スクリーンなど、其の高い空間を効果的に使用している。

宇宙や時間を表現

彼女はかつて、シカゴでグラフィックデザイナーとして働いていた経歴を持ち、主にアメリカと日本でその作品を、発表している。独特な繊細な線で表された版画の一連作のあるものは、日本の伝統的な屏風、あるいは掛け軸をしのばせる形の上に表現されていた。

作品のテーマについて彼女は、宇宙と時間と言うことに触れているが、宇宙の構造の原型が人間の肉体であると述べているように、作品には、デフォルメされた人間の体内を思わせるものが多い。